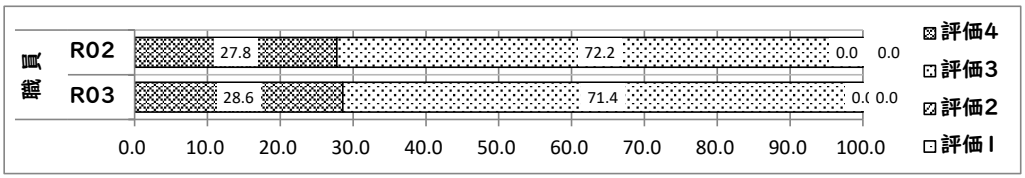
令和3年度 学校自己評価 集計結果及び考察

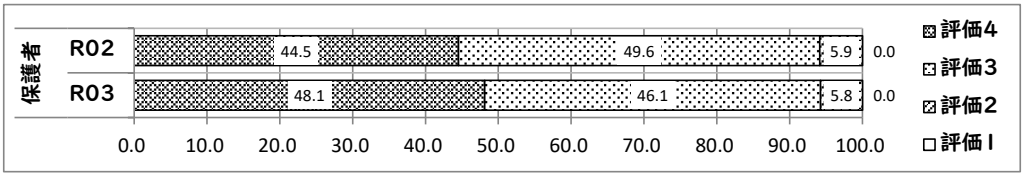
四日市市立内部中学校
令和4年2月3日

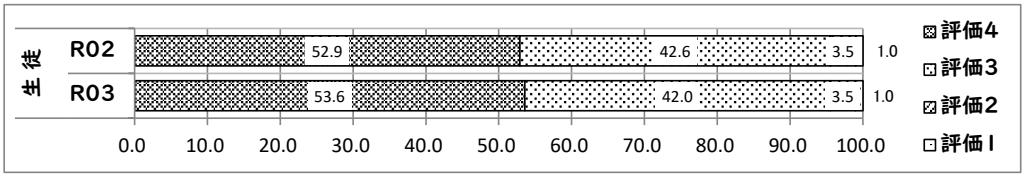
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

①学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。

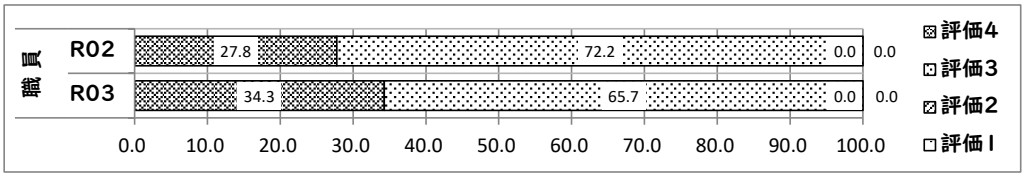


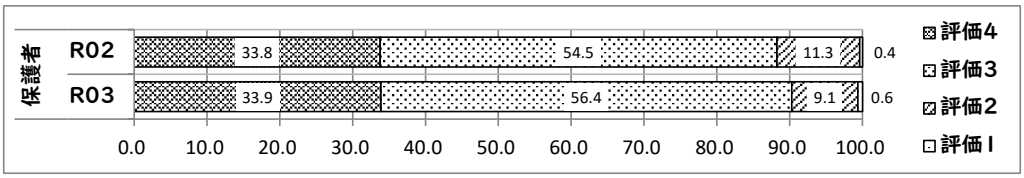


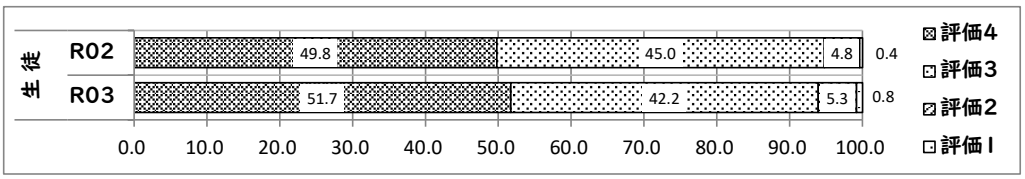


昨年度に続き、コロナ禍での教育活動であったが、全校生徒に貸与されたタブレット端末の活用や、Zoomなどのオンラインツールを利用した取り組みを実施できたこともあり、新しい形の教育活動を進めることができつつある。行事（体育祭や文化祭など）についても、保護者の方に来ていただくことがまだいつものようにはできていないが、制限がありながらも実際に生徒の様子を見ていただける機会を設けることができたことが、およそ94ptの「十分である」の回答につながっている。しかし、保護者の「おおむね不十分である」という回答が微増している事実もあり、まだ改善する余地があると考えられる。来年度も様々な制約のある中での教育活動が予想されるので、引き続き、知恵を出し合い、子どもを中心として、保護者、地域に信頼を得られる開かれた学校づくりを進めていきたい。

②学校は、生徒に授業をていねいに分かりやすく教えている。







生徒は、93pt以上が「十分」「おおむね十分」との回答であった。コロナ渦で制限はあったものの、教師が工夫して丁寧な授業を行ってきたこと、研修を重ね、教科の本質に迫る「楽しい授業」をめざした授業づくり、オンライン授業や一人1台タブレットやICT機器の活用、支援の視点をもった学習指導に取り組んだことが子どもたちに伝わったと考えられる。保護者に関してはほぼ同じ数値となっている。昨年度は休校が長かったことでの不安があったが、今年度は、オンライン授業における生徒の様子を見ていただいたことや、学校・学年通信やHPでの学校の様子を発信したことにより不安感がいくらか軽減されたものと考える。来年度も上記した点をさらに意識し、授業改善に積極的に臨んでいく姿勢を持ち、丁寧で分かりやすい授業を行っていきたい。

令和3年度 学校自己評価 集計結果及び考察

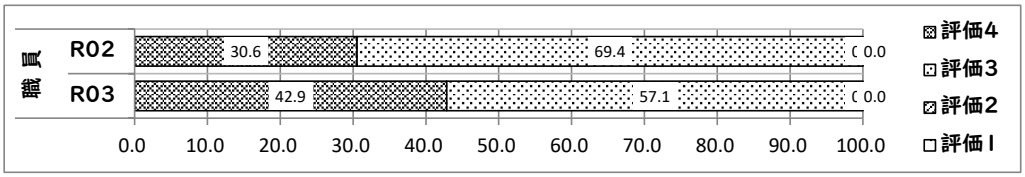
四日市

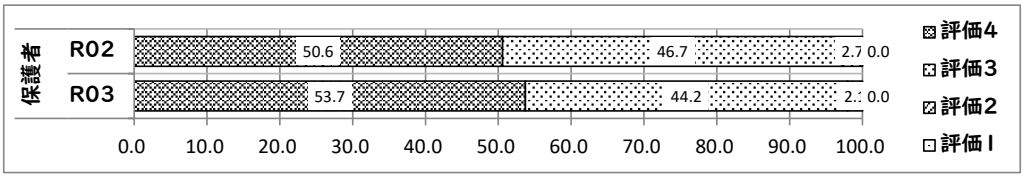
令和4年2月3日

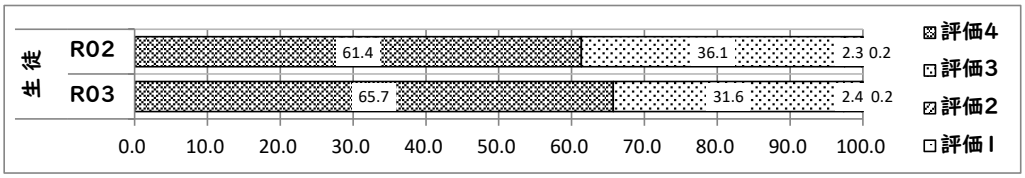
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

③学校は、生徒会活動や委員会活動を通し、主体的に取り組む生徒づくりに努めている。

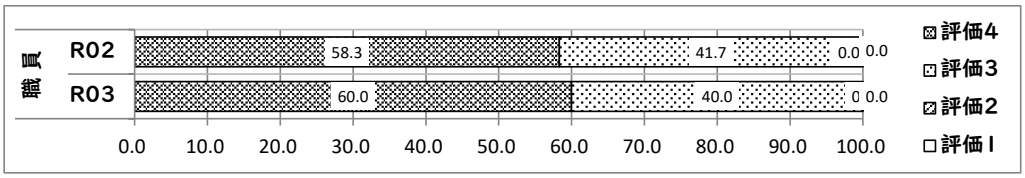


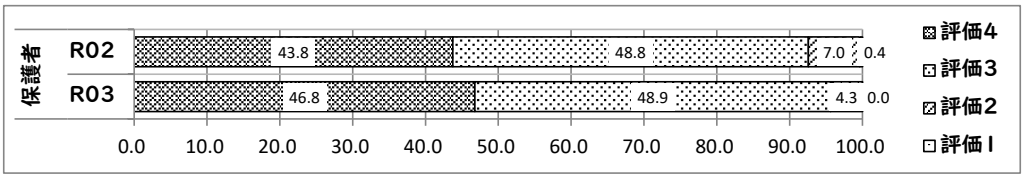


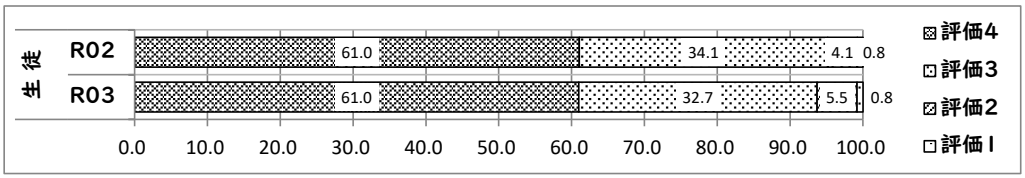


前年度より、三者とも肯定的な評価が増加している。今年度も全校で集まる機会は少なかったものの、体育祭や文化祭の行事、日々の委員会活動において生徒主体で取り組む場面を確保できた成果であると考える。体育祭での生徒会ダンスを、例年同様、生徒会と代議員主体で行うと共に、実行委員会を立ち上げ、有志の生徒も募集して活動した。体育祭の練習の中でも生徒たちが集団の前で活躍する場面が多くあったことや、行事の多くの場面で生徒会役員等が集団の前であいさつをする場面もあったことが、仲間を応援しようとする雰囲気につながり、自分たち主体で行事を創り上げている手応えを感じた成果であると考える。さらに、保護者のポイントが増加した要因は、学校での取り組みを生徒たちが家庭で話したり、生徒会だよりで発信したことで理解が得られたものと考える。今年度は、年間を通じてのスローガンを掲げ、様々な学校生活や行事でその目標を達成しようとする意識が高まったように思う。来年度もさらに生徒たちが主体となり、学校を動かし、支えていけるような体制を整えていきたい。

④学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。







昨年度と同様に職員、生徒、保護者ともに90pt以上が肯定的な評価をしていることは、道徳や人権教育の取り組み、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組んでいる成果である。ただ、生徒の取り組みが「不十分である」という意見が、若干数増加している。わずかな推移であっても、職員・保護者と生徒との感覚のずれは見逃してはならない。また、SNSに関わる事案、些細なことからトラブルにつながっている事案が数件発生し、その解消に向けた学校の指導を保護者の方にもていねいに説明し、理解を得ることが大変重要であり、学校と保護者・地域が協力し、子どもたちを見守る体制づくり、いじめや暴力を許さない良い風土づくりをすすめていきたい。

令和3年度 学校自己評価 集計結果及び考察

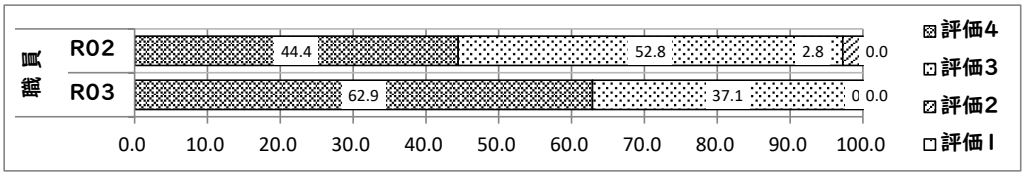
四日市

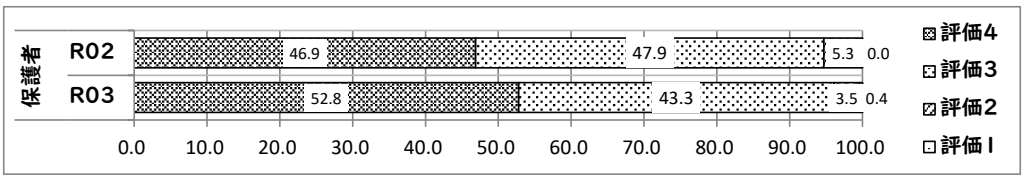
令和4年2月3日

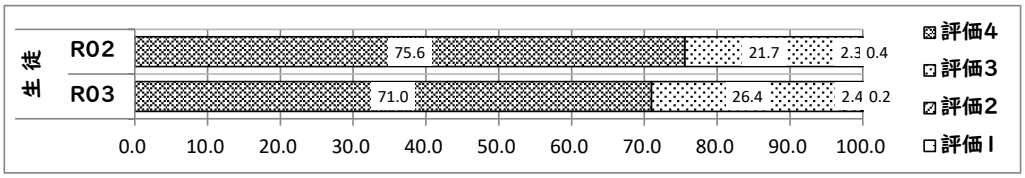
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

⑤学校は、豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切にする生徒を育てようとしている。

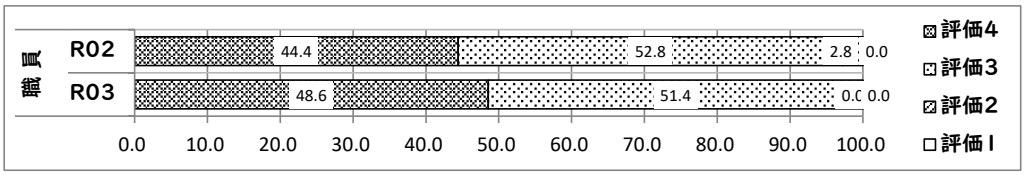


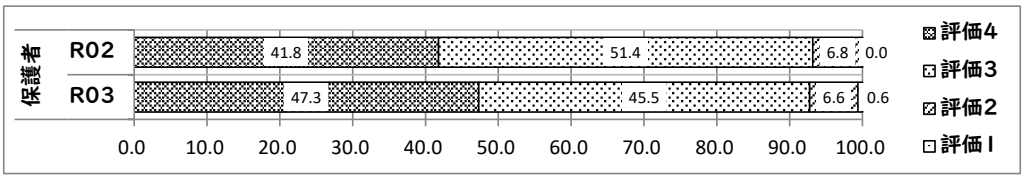


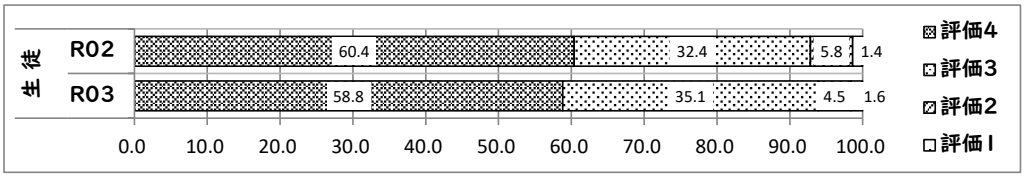


生徒も保護者も95pt以上が肯定的な評価をしている。いじめや暴力を許さない学校づくりと合わせて、安全で安心な学校づくりが進められていることが受け止められていると思われる。しかし生徒の肯定的な回答のうち、「十分である」という回答が昨年度に比べて減っていることと、職員の回答と比べて、生徒・保護者ともに「不十分である」との回答が少数ながらあることは、真摯に受け止めなければならない。人権学習や道徳の時間を計画的に進めていくことをはじめとして、教育活動の様々な場面で、命の大切さや人権を意識した取組を進めていきたい。

⑥学校は、生徒一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように努めている。







昨年度に引き続き、職員、生徒、保護者ともに90pt以上が肯定的に評価している。職員と保護者の肯定的評価は若干増加しているが、生徒はわずかではあるが減少している。感染症対策の学校生活（部活動や行事の中止・縮小・制限）に対する子どもたちの思いがあるのかもしれない。今後もデイリーライフ（生活ノート）やコアラ（教育相談）など、一人ひとりの生徒の声をしっかりと受け止め、さまざまな場面で生徒同士、生徒と教師のよい関係づくりに取り組んでいく必要がある。生徒の思いをより的確に、より早くつかみ、それを共有し、学校がチームとして対応できるように工夫していきたい。

令和3年度 学校自己評価 集計結果及び考察

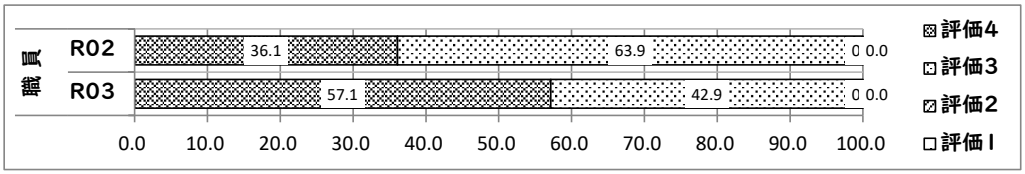
四日市

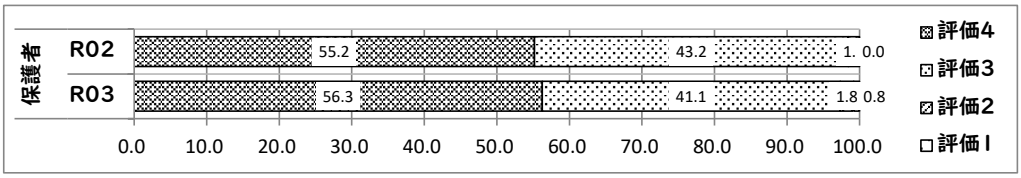
令和4年2月3日

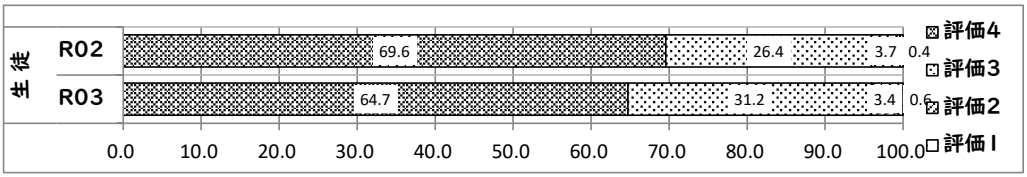
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

⑦学校は、生徒が健康で安全な生活を送れるような学校環境づくりに努めている。

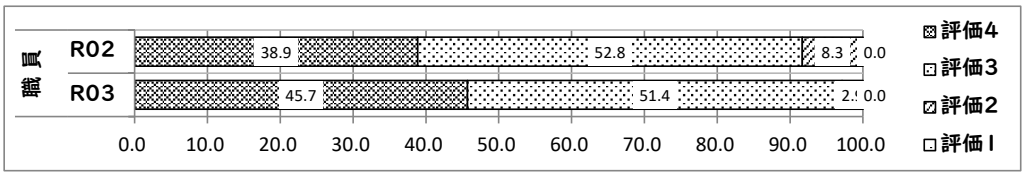


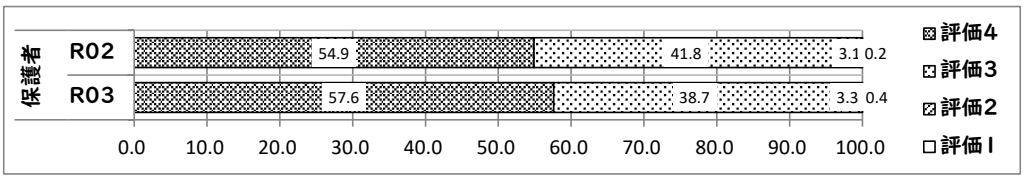


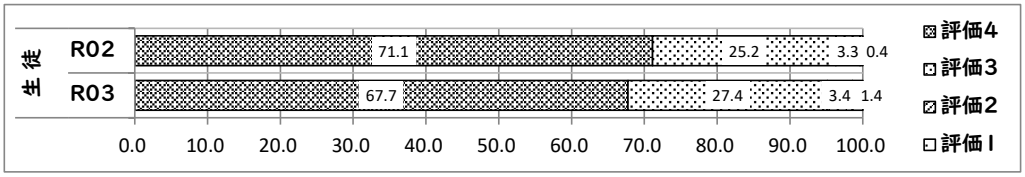


創立37年目を迎え、校舎のあちこちで修理が必要な状況ではあるが、保護者、生徒とも95ptが肯定的に評価している。委員会活動において、危険個所の調査を行っており、生徒からも故障個所などの報告をしてもらい、できる限り迅速に対応できるようにしている。感染症対策についても、各フロア、特別教室前等に消毒液を設置するとともに、教室の換気状況を確認するための二酸化炭素濃度モニターを設置した。ハード面だけでなく、普段の生徒同士のかかわり方についての指導など、ソフト面も含めて感染症対策に努めていきたい。

⑧学校は、「朝の読書」や「補充学習」等で充実した時間を過ごさせている。







全校での「朝の読書」の静かな時間、「聞聴スタ」、「テスト前の学力補充」、3年生では「セミナー学習(3年間の総復習)」などさまざまな取組を展開している。昨年度に続いて、半数以上の生徒が十分満足していると評価している。一方、職員は十分満足しているという回答が6pt以上増加しているが、まだ半分には満たない状況である。全職員で知恵を出し合い、より良い実施方法について検討していきたい。

また、「進路」を考えるとき、粘り強く進路に向かって取り組んでいく力を育むことが重要である。小さな取組を積み重ねていくことが、自分の将来を切り開いていく力につながっていくと考えられる。今後もキャリア教育に計画的・連続的に取り組んでいきたい。

令和3年度 学校自己評価 集計結果及び考察

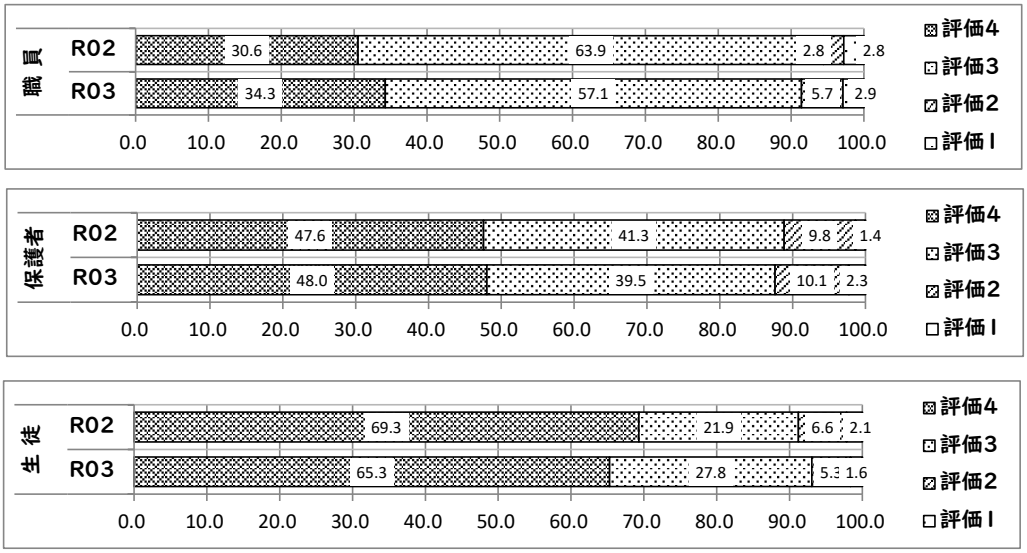
四日市

令和4年2月3日

・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

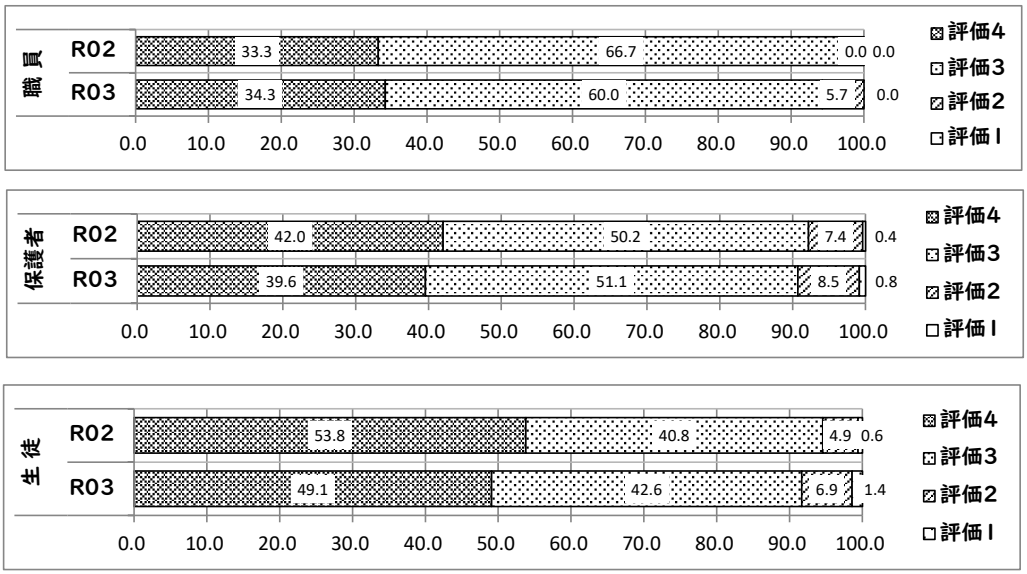
⑨学校は、部活動で適切な指導を行い、楽しいクラブづくりに努めている。



生徒、職員は90pt以上、保護者からは87ptと肯定的な評価を得ている。コロナ禍でその時の状況に左右される中、様々な場面で試行錯誤し、部活動や大会運営を行ってきたことが評価されていると思われる。

令和5年度から、土日の部活動のあり方が変わることが示されているが、どのような形になろうとも、学校としてできることとできないことを整理し、生徒や保護者が満足できる活動を目指して取り組んでいきたい。

⑩学校は、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや、自らの生き方（進路）を考えさせている。



およそ90ptの生徒や保護者が肯定的な評価をしているが、生徒、保護者とも肯定的な回答が3pt減少していること、職員の6ptが否定的な評価をしたことは課題である。「志授業」については昨年同様オンライン実施となったが、「職業体験」「高校授業体験」等が引き続き中止になったことの影響は大きい。代替として、学年で講演会等を行い、生徒自身が将来について考える機会の確保に努めたが、体験活動で得るものには代え難く、根本的な解決とはならなかった。学校の教育活動全体をキャリア教育の視点でとらえ、子どもたちの姿を見つめ、将来につながる活動を構築していきたい。来年度については、職場体験学習の実施に向けて準備を進め、感染状況を注視しつつ、体験活動の機会が確保できれば積極的に行っていきたい。